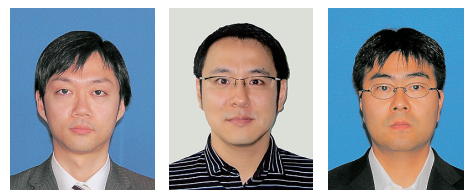


道路の区間 ID 方式を用いた 官民連携による情報提供 サービスの実現に向けた取り組み



高度情報化研究センター

情報基盤研究室 部外研究員 有賀 清隆 (研究官 (博士(工学))) 今井 龍一 室長 重高 浩一

(キーワード) 道路の区間ID方式、道路関連情報の流通、ITS

1. はじめに

著者らは、道路を軸とした位置参照方式である「道路の区間ID方式（以下、「ID方式」という。）」を用いた情報提供サービスの高度化や新たなサービス創出に取り組んでいる¹⁾。

一方、道路管理者の情報提供の具体例として阪神高速に着目すると、これまでも交通安全に資する各種情報を広告やWebページなどの媒体を通じて提供している。しかし、道路利用者への時宜を得た情報提供の実現が検討課題となっている。

本稿は、阪神高速の保有する安全、安心、快適な運転支援に係わる知見（以下、「コンテンツ」という。）をID方式を用いて道路利用者に配信するため、国総研、日本デジタル道路地図協会、阪神高速の3者が発起者となり参加者の公募を経て結成した官民連携体制の「Project Z NAVI de HANSHIN!²⁾」の取り組みを報告する。

2. Project Z NAVI de HANSHIN! の取り組み

本取り組みは、3ヶ年計画としており、平成24年度は第1ステップとして阪神高速の保有するコンテンツをID方式で提供し、次年度以降は大縮尺道路地図を組み合わせたより高度な提供方法を検討する。

第1ステップの構成を図1に示す。阪神高速の保有する3種類のコンテンツ（交通事故多発地点、分合流部の注意喚起および工事予定）の位置の表現をID方式に変換して民間各社へ配信する。民間各社は、受理したコンテンツをID方式対応の地図を用いて道路利用者に提供する。

3. 情報提供サービスのイメージ

民間各社は、コンテンツを道路利用者に提供するため、図2に示すような事前確認を目的としたWebサ

イトと道路利用者の属性（昼夜別、性別など）に応じてリアルタイムに情報を提供するスマートフォン向けのアプリケーションの2種類を開発した。本アプリケーションにより、阪神高速の保有するコンテンツの道路利用者への時宜に応じた提供が期待できる。

4. おわりに

本稿を執筆している2013年1月初旬は、システムの現地試験中であり、今後試験を重ねて実験を開始する予定である。本取り組みは、ID方式を用いた初の情報提供サービスである。今後も成功事例を増やすために鋭意推進していく予定である。

【参考】

- 1) 有賀清隆ほか：官民連携による道路の区間ID方式を用いた都市高速道路における安全運転支援の情報提供サービス，第11回ITSシンポジウム2012，ITS Japan，2012.12
- 2) Project Z NAVI de HANSHIN! 紹介サイト
<http://navi-de-hanshin.jp>

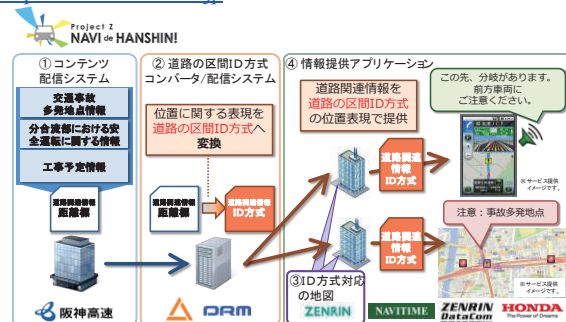


図1 情報提供サービスの構成



Webサイトによる提供イメージ ※画面はイメージです。実際の画面とは異なる可能性があります。 スマートフォンによる提供イメージ

図2 情報提供サービスの提供イメージ

6.

国づくりを支える総合的な手法の確立